



室堂の高い山から南西の方角にみえる薬師岳

# 北アルプス 廃道寸前の伊東新道を 湯俣温泉に下った1979年夏(1)



北アルプスの再奥地の楽園の雲ノ平



黒部五郎岳とそのカールのもよう

北アルプスの裏銀座コースを富山側から歩き、薬師岳(標高2,926m)に登って雲ノ平に降りた。真上で雷が炸裂する夜をテントで過ごすのは気持ちの良いものではなかった。雲ノ平から黒部五郎岳(標高2,840m)をへて三俣蓮華岳(標高2,841m)に登った。この間もうかれこれ3泊。夜行寝台で上野駅から富山駅に移動したのであるが、準備の疲れがあった。槍ヶ岳に向かう行程を切り上げて伊東新道を青嵐荘まで下った。1979年夏のことであった。

伊東新道はこの下山から4年後に廃道になった。伊東新道は登山地図には明確に書かれた道であった。道の状態はこのときすでに廃道といってもよかった。川沿いの傾斜がきつい高巻は砂地になっていて、上から崩れている状態がつづき、踏み跡を確かめることができなかった。靴を垂直に置けない傾斜した砂地は脆く、いつ滑るかわからない。砂の斜面は遙か下の湯俣川に崩れ落ちていた。疑いをもたないほどに明瞭に印刷された伊東新道を信じている気持ちがつづいた。地図の記載は過去にあった事実である。この事実は情報なのであるが、事実が変わっているから情報は書き換えなければならない。このことへの理解が不足した。一般人の一般的な登山の行程にこのように地図にある情報が事実と違うことなど

想定されなかった。

## 今週の主な記事

- 1 写真エッセイ 北アルプス(1)
- 2 JASSI2018、大阪府が計量教室
- 3 容量線入りガラス推進委員会報告(8)
- 4 とつきようの計量No.262
- 5 NMS研究会報告、新製品(タニタ)
- 6 自動車3社が不正検査、社説
- 7 守備本「ハンディメトリクス」
- 8 守備本「ハンディメトリクス」



黒部五郎小屋、三角屋根の小屋は印象に残る

1983年に伊東新道は廃道になった。ある橋が壊れたことによる。2018年8月の時点で、伊東新道を再建する動きがあるがまだ一般人の登山ルートにはなっておらず熟達者でも難しい。

伊東新道から槍ヶ岳に登るルートとしての選択は現在はない。湯俣温泉から湯俣川を直ぐに左にとって北鎌尾根に向かうルートは登山者の憧れの対象であった。北鎌尾根コースはあとでふれる。

伊東新道を使って三俣蓮華岳に向かう登山者は少なかった。登山者が少ない山道は荒れる。荒れた果てに廃道となった。登山者が少ないのは理由があった。バス事情といった社会的な理由と吊り橋など登山道維持のための自然にまつわる理由の2つが相乗作用した。

登山者が少ない伊東新道は荒れた。登山雑誌では伊東正一氏の英雄的な活躍をもてはやしていたこと、登山地図に明瞭に記載された登山

路である。情報は登山雑誌と登山地図に限定される。この情報を信じ込んでいるから山小屋の管理人に確認することなど思いもよらない。伊東新道は1983年に吊り橋が崩壊したため登山道としては利用できなくなった。利用するとなると沢登りの装備と経験が要る。三俣山荘から湯俣川への降り口付近だけは道があるが誤って下ると取り返しがつかない。

伊東新道はその後2017年ころ、雲ノ平山荘のオーナーが伊東新道の探索・登山をしている様子をNHKが放送した。道だったところには木が生い茂っている。とても道とは思えない状態だ。探索したのは伊東新道を開いた人の子孫であった。山なれた人でも手を焼く難所になっていた。

伊東新道は湯俣温泉から湯俣川に沿って遡上し三俣山荘に至るルートである。伊藤正一(1923年から2016年6月17日)氏が1956年に開いた。途中、湯俣川に5つの吊り橋を架けていた。伊藤正一氏が経営する三俣山荘や、雲ノ平山荘への補給路として使われていた。その後北アルプス奥地への資材運搬がヘリコプター利用にかわった。物資輸送路として使われなくなった伊東新道は1983年に吊り橋が崩壊したことによって廃道になった。

その状況はどうだったか。湯俣川に架かる第1吊橋跡上部左岸の大崩壊地は巨大な岩が崖上50m以上にわたって連なっている。2009年時点では巨岩は崩壊していなかった。それが2010年には崩壊した。影響で流れが変わって大激流になったためにわたれなくなった。

地図情報あるいは雑誌情報はいつでも過去のものである。この情報は現実には追いつかない。山と渓谷誌2010年8月号は、第1吊橋跡上部左岸の大崩壊地の崩壊前の情報を掲載している。川を渡ることができるというのだが、巨岩の崩落で川は激流となったために渡ることができない。通過するには高巻きすることになり、さらにロープ(ザイル)を使っての5m懸垂下降が加わる。普通の登山者が足を踏み入れてはならない道に変わった。

谷地の登山道はいつでも崩落がつづいている。もろい岩肌そして砂地は絶えず崩れている。崩壊地以外の登山道も人が通らないから樹木に覆われるなどする。道とはいえないほどに荒れている伊東新道である。だから一般登山者は近づいてはならない。熟達者でも通行の危険は崩壊がつづいていることなどもあって極度のものである。



三俣蓮華岳と三俣山荘  
オーナーは伊東正一氏の一族



計測と科学

毎週日曜発行  
日本計量新報社

東京都千代田区神田錦町3-11-8  
(武蔵野ビル)

〒101-0054 TEL 03-3295-7871  
FAX 03-3295-7874

http://www.keiryou-keisoku.co.jp/

振替口座 00140-5-12935

購読料年間25,000円(消費税別)

定量計量専用機



速くハカル、

楽にツメル



Yamato

大和製衡株式会社 tel:078-918-6577

http://www.yamato-scale.co.jp/

(写真と文は甲斐鐵太郎)  
(次号以下につづく)



## 『ハカリのイシダ』の自信作

あらゆる計量現場で効率作業のお手伝い。

デジタル  
重量台秤

- 重量格差の大きい製品も1台でOK!
- ワンタッチ切替で計数作業を実現
- チェッカー機能で品質向上に貢献
- 充実のオプション

蛍光管表示  
AC電源タイプ

IT Series  
ITX-6



IT Series  
ITX-30



IT Series  
ITX-150



型番	ITX-6		
ひょう量(切替)	1500 g	3000 g	6000 g
目量	0.5 g	1 g	2 g
計量皿寸法	200mm(横) × 250mm(奥行)		

型番	ITX-30		
ひょう量(切替)	6 kg	15 kg	30 kg
目量	2 g	5 g	10 g
計量皿寸法	330mm(横) × 310mm(奥行)		

型番	ITX-150		
ひょう量(切替)	30 kg	60 kg	150 kg
目量	10 g	20 g	50 g
計量皿寸法	380mm(横) × 530mm(奥行)		

液晶表示・バッテリータイプの<ITBシリーズ>もラインナップしております

株式会社イシダ

本社/京都市左京区聖護院山王町44番地 TEL.(075)751-1686(直) 〒606-8392

カタログ等詳しい資料をご希望の方は、左記へお問い合わせ下さい。

http://www.ishida.co.jp